

Q1 採血にかかる時間は？



A

全血採血（200ml・400ml）は、**10～15分程度**です。

成分採血は、**40～90分程度**です（採血する量により異なります）。

Q2 献血をして病気になったり、うつることはないの？

心配ありません。献血をして病気になることはありません。

献血をするときに使われる針や献血バッグなどは、献血者一人ひとり新しいものに交換されます。

だから、他の献血者から病気などがうつることは絶対にありません。

A



Q3 献血をすると、自分の体のことが分かって本当？



A

ご希望の方には、血液検査の結果をお知らせしています。

自分の体の健康状態を把握できますので、病気の早期発見などにも役立っています。

※なお、HIVの検査結果は通知されません。

※エイズ検査は保健所等で無料・匿名で受けられます。

Q4 近くで献血できる場所を調べるには？

日本赤十字社のホームページでは、お近くの献血ルームや献血バス運行予定などを掲載しています。

詳しくは、以下で検索してください。

日本赤十字社 献血

検索

A



Q5 献血するときの注意点は？

A

患者さんに安全な血液をお届けするために、採血基準のほかに、献血できる条件があります。これは、献血者と輸血を受ける患者さんの安全性を考慮したうえで、念のため献血をご遠慮いただいているものです。献血できないからといって、必ずしも不健康というわけではありませんので、ご理解をお願いいたします。

以下は主なものですが、不安な方は検診医に相談してください。

薬を飲んでいる

病気や薬の種類によって、献血をご遠慮いただくことがあります。

ビタミン剤などは、内服していても支障ありません。



最近、歯科治療を受けた

3日以内に出血を伴う治療を受けた人は、献血をご遠慮いただいています。



海外に行った



帰国当日から**4週間**以内は、献血をご遠慮いただいています。

また、特定の時期に一定期間イギリスなどへの海外渡航歴がある方については、当分の間献血をご遠慮いただいています。

これは、イギリスを中心に発生した変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（vCJD）について、牛海綿状脳症（BSE）との関連が強く指摘されており、vCJDの感染経路として、BSE牛の経口摂取や潜伏期間にあるvCJD感染者血液の輸血等が考えられていることから、安全が確認されるまでの当分の間、BSEが発生した欧州諸国に滞在（居住）された方の献血をご遠慮いただいているものです。

献血できないからといって、必ずしも不健康というわけではなく、採血時の検査等で病原体を検出することが現在の科学水準において困難であり、また、血液製剤の製造工程で病原体を完全に不活化・除去する方法が開発されていない状況に堪がみ、予防的措置として実施しているものです。

ピアスの穴をあけた

穴のあけ方によって異なりますが、**1～6ヵ月**間献血をご遠慮いただいています。

また、唇や口の中、鼻など粘膜を貫通してピアスをしている人は、献血をご遠慮いただいています。

予防接種を受けた



予防接種の種類によって異なりますが、一定期間献血をご遠慮いただいています。

■接種後**24時間**：インフルエンザ、日本脳炎、子宮頸がん、肺炎球菌など

■接種後**4週間**：B型肝炎など

Q6 献血した後、休憩は必要なの？



A

休憩は必要です！

献血の後は、気分不良、めまいなどの副作用が発生する場合もあるので、休憩場所で十分に水分をとって休憩(30分以上)してください。

もし、献血後にめまいなどがおこったら、転倒防止のため、すぐにしゃがむか、横になってください。

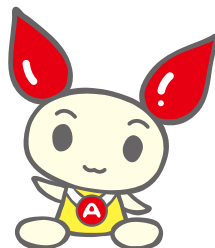
また、何度も献血したことがあっても、毎回、副作用には気を付けてください。

Q7 献血後に副作用があった場合、補償はあるの？

「献血者健康被害救済制度」があります。

副作用の大部分は軽度のものですが、医療機関の受診が必要となった際、医療費等を補償する制度があります。詳しくはお近くの血液センターにお尋ねください。

A



Q8 400ml は抵抗があるので、200ml で採血をお願いしたいけど大丈夫なの？



A

200mlでも大歓迎です。

16歳から200mlの全血採血ができます。400mlの全血採血が出来る年齢（男性は17歳、女性は18歳）になったら、400mlをお願いしてませんが、初めての献血で400mlの献血に抵抗がある場合や、400mlの採血基準に満たない方などは、200mlでも献血できます。